

平成 28 年度 第 2 回京北第二小学校学校評価の結果と分析

本校教育活動をより充実するために、今年度 2 回目、後期の学校生活について、児童・保護者・教職員のアンケートを実施しました。お忙しい中、保護者の皆様にはご協力いただき誠にありがとうございました。

■学校評価の目的

- 学校教育目標・めざす子ども像の達成に向けての学校教育の取組について、学校評価を通して、成果と課題を明らかにし、よりよい学校への改善を図る。
- 保護者・地域の方に、育てたい「子ども像」や課題を知っていただき、子ども達への教育を共に進めていく。
- 児童も後期の生活を振り返り、よりよい学習や生活ができるようにする。

■結果と分析

家庭生活 (A そう思う・B 大体そう思う・C あまりそう思わない・D そう思わない、数字は%)

質問項目	保護者				児童				教職員			
	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
①子どもには、家庭での学習の習慣を身につけさせていますか。	25	61	11	3	50	48	2	0	30	70	0	0
②子どもには挨拶をするなど基本的な生活のマナーを守らせていますか。	50	45	5	0	62	34	2	2	64	36	0	0
③子どもには早寝、早起き、朝ごはんの習慣を身につけさせていますか。	36	50	14	0	41	51	4	4	60	40	0	0
④子どもは言葉遣いや人を大切にすることなどの社会生活のルールを守ることができていますか。	27	70	3	0	45	50	5	0	60	40	0	0
⑤子どもには学校への提出物などをきちんと出させていますか。	48	48	4	0	64	36	0	0	40	60	0	0
⑥子どもにはゲーム・携帯電話等の時間や約束を守らせていますか。	32	50	18	0	46	44	6	4				
⑦子どもには家での役割を持たせていますか。	36	46	18	0	43	43	14	0				
⑧家庭で学校のことを話すなど、子どもと対話やふれあいの時間をもっていますか。	45	48	2	5	51	38	11	0				

- ①家庭での学習の習慣については保護者、児童、教職員とも、A そう思う（以下 A）と B 大体そう思う（以下 B）を合わせて 80%以上になっています。ただ、前期と比べると、A と B の合計は変わらないものの、後期は保護者、児童ともに A がおよそ 10%低くなり、B が 10%高くなっています。前期にも分析いたしましたが、習慣が身についているとなると、自主的に(保護者の声かかかる前に)家庭学習に取り組んでいる状況であると判断し、保護者が児童の様子を、また児童が自分自身を顧みたとき、A とするまでには至っていないと評価された方が増えたということではないでしょうか。家庭での学習の習慣をつけさそうと日々取り組んで頂いている成果であると思います。学校では家庭学習の内容を工夫し、授業等とつながるものにすることを今後も取り組んでいきます。
- ②家での役割については、C が保護者の前期は 27%でしたが後期は 18%になり、児童が前期は 18%でしたが 14%になりました。とりわけ役割を決めずに家庭での仕事をしている児童を評価して頂いたり、児童が冬休みや年末年始にかけて家での役割を果たしたりしたことが要因ではないかと考えます。そこに、生活科や家庭科などの学習が生かされているとしたらうれしいです。

- ⑧子どもとの対話やふれあう時間については、保護者で C と D そう思わない（以下 D）を合わせて 7 %あり、児童も C が 11%（D は 0%）あります。実はこの C と D の合計は前期と同じです。児童が対話やふれあいの時間をもっていないと考えているかもしれませんが、おうちで学校の話をも十分にしていないと考えているのかもしれませんが、ただ、何気ないやりとりの中で、児童の成長を感じたり、悩みに気付いたりするものです。もし、児童の悩みに気付かれたら、なるべく早く学校にご相談頂きたいです。また、学校では思わず話したくなるような取組を進めていきたいです。

学校生活 (A そう思う・B 大体そう思う・C あまりそう思わない・D そう思わない、数字は%)

質問項目	保護者				児童				教職員			
	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
①子どもは学校生活を楽しんでいますか。	61	36	0	3	64	32	2	2	67	33	0	0
②子どもには友達を大切にし合う関係は育っていますか。	66	32	2	0	52	46	2	0	58	42	0	0
③子どもに思いやりの心やいじめを許さない心は育っていますか。	57	41	2	0	62	32	6	0	75	25	0	0
④学校は授業や行事を通して、健康教育や保健教育に積極的に取り組んでいますか。	50	48	2	0	57	36	5	2	100	0	0	0

どの質問項目においても A ・ B 合わせて 90%以上あります。ただ、後期も少数ではありますが、保護者には D の、児童には C ・ D の回答があり、見過ごすことはできません。保護者と連絡を取り合う、児童の様子をしつかりと見る、必要であれば話を聞くなど、丁寧な個別の対応をしていきたいと考えています。

学習 (A そう思う・B 大体そう思う・C あまりそう思わない・D そう思わない、数字は%)

質問項目	保護者				児童				教職員			
	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
①学校は、工夫をして分かりやすい授業を行うなど、学力の充実、向上に積極的に取り組んでいますか。	41	55	4	0	68	32	0	0	70	30	0	0
②子どもは意欲的に学習に取り組み、授業の内容を理解していると思いますか。	16	77	7	0	45	50	2	3	40	60	0	0
③子どもは、授業などでクラスや仲間に分の考えを表現・発表することができていますか。	30	66	4	0	45	46	7	2	60	40	0	0
④子どもは課題についてあきらめずに粘り強く取り組んでいますか。	30	59	11	0	52	45	0	3	50	50	0	0
⑤「全校一人百冊読書」に取り組んでいます。子どもは本をよく読んでいますか。	34	32	30	4	61	29	7	3	100	0	0	0

- ②授業の内容理解については、保護者、児童、教職員ともに、A ・ B 合わせて 80%以上あります。ただ、保護者の A については前期が 31%であったのに対し、後期は 16%にとどまっています。年度末になり、学年全体の学習内容を確かに理解していると言い切ることが難しいためではないかと推測します。これから各教科において学年のまとめをしていく時期になります。来年度良いスタートをきるためにも、丁寧にまとめをしていきます。
- ⑤読書については、保護者、児童ともに A ・ B の合計が前期と変わりありません。ですが、保護者、児童ともに A が 10%増えています。これは、年度末になり、100 冊、多い児童は 200 冊、300 冊と読書冊数を達成しているからだと思います。本をたくさん読むことが目標ではありません。でも、小学校の段階ではたくさんの本

とであることはとても大切なことであると思います。そうして、自分の好みのジャンルや好みの作者とであい、人生の楽しみの1つとして読書をし続ける大人になってくれればと思います。

③自分の考えの表現・発表については、児童においてAが前期は35%でしたが、後期は45%でした。今年度、互いの考えについて話し合い、より深く内容を理解する、そんな授業をめざして研修等を取り組んできました。児童が自分とは違う意見の仲間と話し合う意義を見いだし、協働で学習することを楽しむことができていたらしいです。

学校運営

(A そう思う・B 大体そう思う・C あまりそう思わない・D そう思わない, 数字は%)

質問項目	保護者				児童				教職員			
	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
① 学校行事は子どもの力を育てるものになっていますか。	64	34	2	0	50	48	0	2	80	20	0	0
② 学校は、保護者や地域の方に教育目標やめざす児童像を分かりやすく伝えていますか。	41	55	4	0					64	27	9	0
③ 学校は、学校便りや学級通信、ホームページ等で学校の様子を積極的に知らせていますか。	55	43	2	0					73	27	0	0

②教育目標やめざす児童像については、保護者においてA・Bの合計が前期86%に対して後期は96%であった。今後も行事や各学級での取組をお伝えするときに教育目標やめざす児童像とのつながりを説明していきます。そうして学校と家庭で共通認識をもっていることで、より効果的な教育活動が推進できると考えています。

①学校行事については保護者、児童、教職員ともにA・B合わせて95%以上になっています。後期には学習発表会やなわとび大会等があり、当日までに粘り強く取り組んだ成果を発揮することができました。そのがんばりを保護者と教職員が共有し、児童に賞賛の声をかけることで自信につながります。そして、その自信が学習や他の取組への意欲へと繋がっていき、児童の力を高めていくことができると考えています。

学校・保護者・地域との連携

(A そう思う・B 大体そう思う・C あまりそう思わない・D そう思わない, 数字は%)

質問項目	保護者				児童				教職員			
	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
①学校・担任は保護者の相談に丁寧に対応していますか。	61	36	0	3	43	46	7	4	91	9	0	0
②子どもは、地域の行事やイベントに参加していますか。	55	41	2	2	36	55	7	2	27	73	0	0
③学校・家庭・地域が協力して子ども達の安全や健全育成に努めていますか。	67	30	3	0					70	30	0	0

①相談への丁寧な対応については、前期に比べて保護者、児童ともにAが10%ほど高くなっていますが、C・Dの合計は前期と同じです。保護者の願いや児童のおもいをしっかりと聞いて理解することを大切にしていきます。その上で、取組について説明し、今後も協力して教育活動を進めていきたいです。

③安全や健全育成については、保護者、教職員ともにA・B合わせて90%以上となっています。PTA役員の方による毎月のあいさつ運動、二小っ子見守り隊・少年補導の方の登下校の見守り等、本当にありがとうございました。今後も学校・家庭・地域が協力して取組を進めていくことが、より効果的な教育活動の推進につながると考えています。今後ともご協力よろしく願いいたします。

保護者アンケート自由記述欄より（抜粋）

□いつもありがとうございます。

□個人懇談会、毎回成績の表の説明と長期休暇の宿題の説明を受けて、特に話すこともなく終了していました。何か1つでもその子の良かった所を話して頂けると良かったのにと思います。悪かった所は話して頂けるのですが・・・子ども達の意見や考えをもう少し柔軟に積極的に取り入れてくださってもよいかと思いました。

□地域の人からもいろんなことを学んでいて、京北らしい子育てができています。雪の日は大野でもバスを使うなど緊急対策をお願いします。

□給食の時に髪をきちんとまとめていない先生や教室にスマホを持ち込む先生がいらっしゃるようです。子どもは「大人がしたように」するとか申します（「言ったように」ではなく）。プロ意識をもって仕事に臨んで頂きたいです。

□主人の仕事や家庭の事情でお休みをいただくことが多く、ご迷惑をおかけしております。このような時にも学習におくれがでないようにご対応いただきており、感謝いたしております。

□子どもには全校なわとび大会が苦になっている。「学校は楽しい。でも、大なわがなかったらいい。学年だけでやるならいい。」と言っています。全学年での学び、遊びは良い反面、お互い不必要なプレッシャーがかかっていると思います。6年が1年を世話しなければならない。全校（全学年）一丸にならねばならない。「ねばならない」が多すぎて、子どもの逃げ場がなさすぎる気がします。少人数のよさもあるが、少人数だから子どもの自由が奪われている点が、この一年を通して、とても気がかりな点となっています。

□いつもありがとうございます。今後も宜しくお願いします。

□夏休みの宿題の読書感想文に、ほぼ全学年同じ「ひな形」があることに違和感を覚えます。もちろん感動できる本に出合い、その本について想いをめぐらし、その想いを文章にしたためることは子ども達の学びのプロセスでとても重要だと考えます。しかし、その表現方法は多彩、多様であっていいはずです。（中略）

特に二年生の子ども達は、お互いのいいところをほめ合っていることを知っています。最近も子どもは帰宅するなり「〇〇くんが二重跳び〇回できはった！すごいニュースです！」と教えてくれました。うちの子が他の子達からほめられているのも聞きます。お互いの得意なところを素直に認め合っている姿に感心するばかりです。大人でもなかなかできないことです。それもこれも普段の二小の先生方の接し方が子ども達にそういう姿勢を促しているのだと確信しています。だからこそ、多様な可能性を秘めた子ども達に一律のひな方に当てはめるのではなく、子ども達の表現方法を尊重するような形であってほしい、と考えているのです。グローバルで多様な未来を生きていく子ども達です。「みんな違ってみんないい」のスローガンにあるように、そして普段の子ども達がいいところをほめ合っているように、読書感想文でもお互いの表現方法のいいところをほめ合えるよう、ひな形とは違った形であればいいなと思っています。

学校評議員会より

○家庭生活を考えたとき、おじいさんおばあさんと子どものかかわりも考えていきたい。

○家庭では親が、学校では先生が見守っていて、子ども達は幸せな環境で育っているのが分かる。昔は大人にそんなにかまってもらっていなかったように思う。その分、子どもだけの世界があり、知恵と工夫を働かせて子どもらしく遊んでいた。

○なわとび大会などの日頃の取組の成果を発揮する行事があることはいいことであると思う。ただ、行事が自分のためになっていないとこたえた子どもの気持ちはどうであったかは気になる。

○意味もなく教室にスマートフォンを持ち込むことは難しいが、今後は教室の中でのタブレットなどの機器の活用が日常的に行われてくる。その時にその意義を保護者に説明し、理解してもらう必要がある。